

慢性副鼻腔炎



空港前クリニック 耳鼻いんこう科
川崎 克

慢性副鼻腔炎

細菌感染の反復で副鼻腔炎が遷延化したもの。生活環境様式、鼻副鼻腔の形態、体質が発症の誘因となる。

以前はいわゆる蓄膿症(膿汁)と言われていた。

栄養状態の改善とともにポリープ性の副鼻腔炎が増加している。

小児期と中高年齢層に副鼻腔炎は多くみられる。

副鼻腔炎の症状

頭が重たい、鼻汁、鼻がつまる、においがしない、咳、痰

副鼻腔炎の治療法

保存療法 ネブライザー
 鼻副鼻腔の吸引、洗浄
 マクロライド療法、その他内服療法

3ヵ月程度治療して効果がみられない場合には手術療法

手術療法

1. 鼻内手術（内視鏡手術）
1990年代から急速に普及 ほとんどが内視鏡手術
2. 鼻外手術
従来の手術療法

慢性副鼻腔炎の型と誘因

アトピー型

好酸球増多

気管支喘息

アレルギー性鼻炎

真菌アレルギー (AFS)

アトピー型 非アトピー型

好酸球増多

気管支喘息

アスピリン喘息 (AIA)

非アトピー型 (従来型) 感染型

一般細菌、真菌

菌性 (齲歯)

細胞線毛運動障害

副鼻腔炎 外来

空港前クリニック

2012年1月から2014年12月までに受診し、マクロライド療法を行い、1ヵ月以上経過を追えた患者96例

男性 56例 女性40例 (2歳から86歳まで)

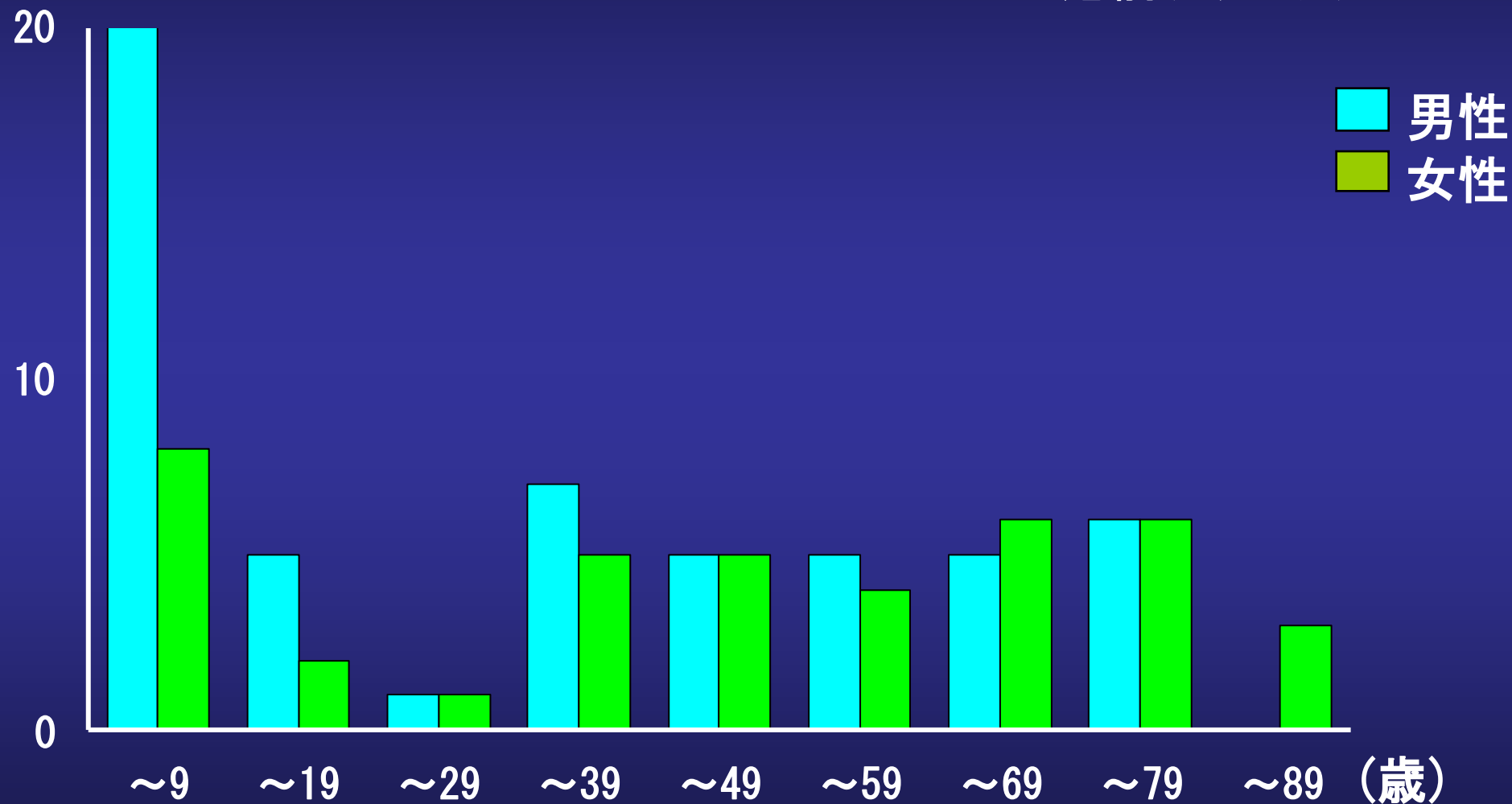
- 検討項目
1. 年齢 性別
 2. 症状
 3. 当院受診前に受診した科
 4. 合併症・基礎疾患
 5. 予後
 6. 症例提示

2012年1月から2014年12月 (空港前クリニック)

副鼻腔炎（マクロライド療法）

空港前クリニック

(例)



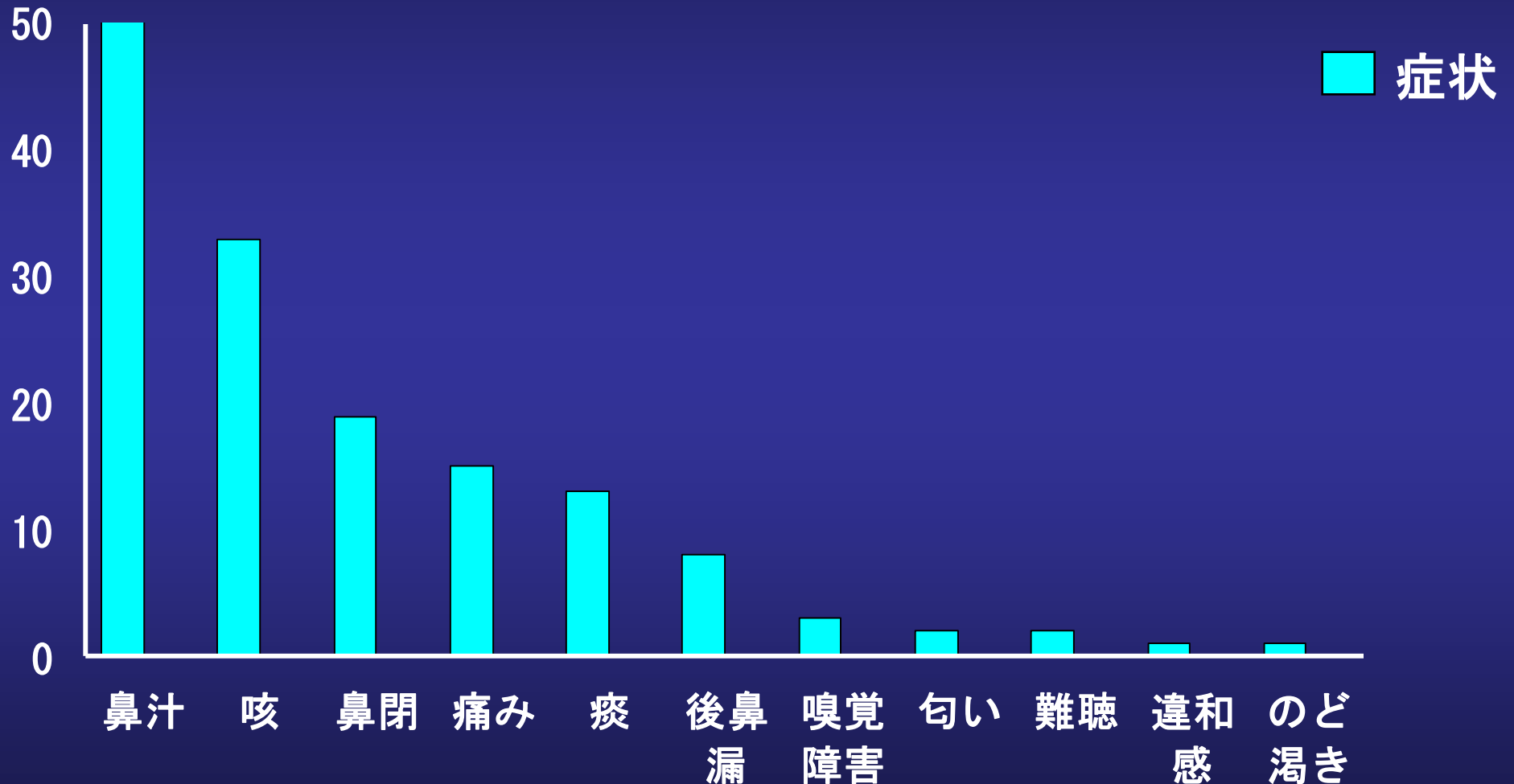
2012年1月から2014年12月（空港前クリニック）

副鼻腔炎（症状）

（重複あり）

（例）

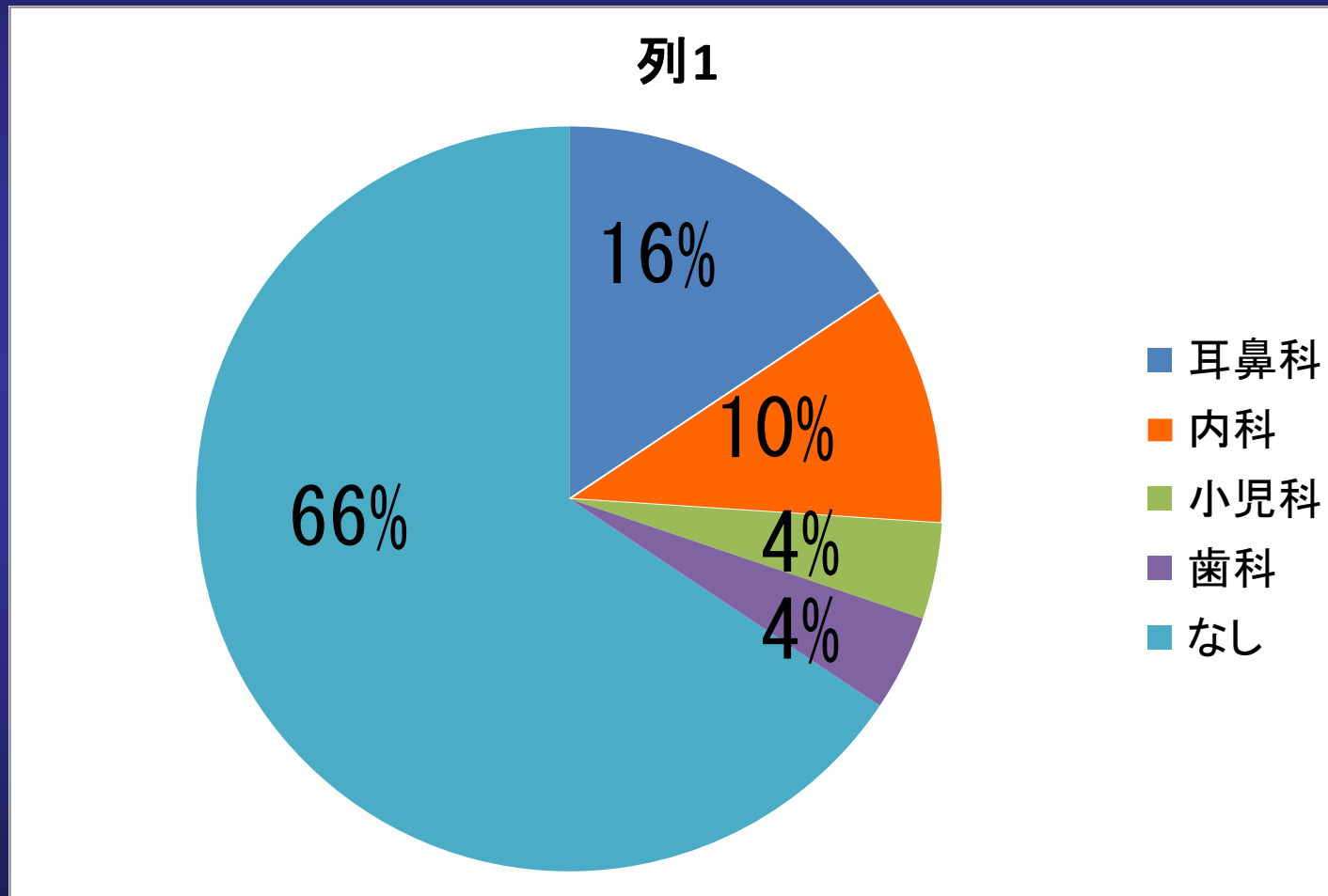
空港前クリニック



2012年1月から2014年12月（空港前クリニック）

副鼻腔炎（以前 治療の医院）

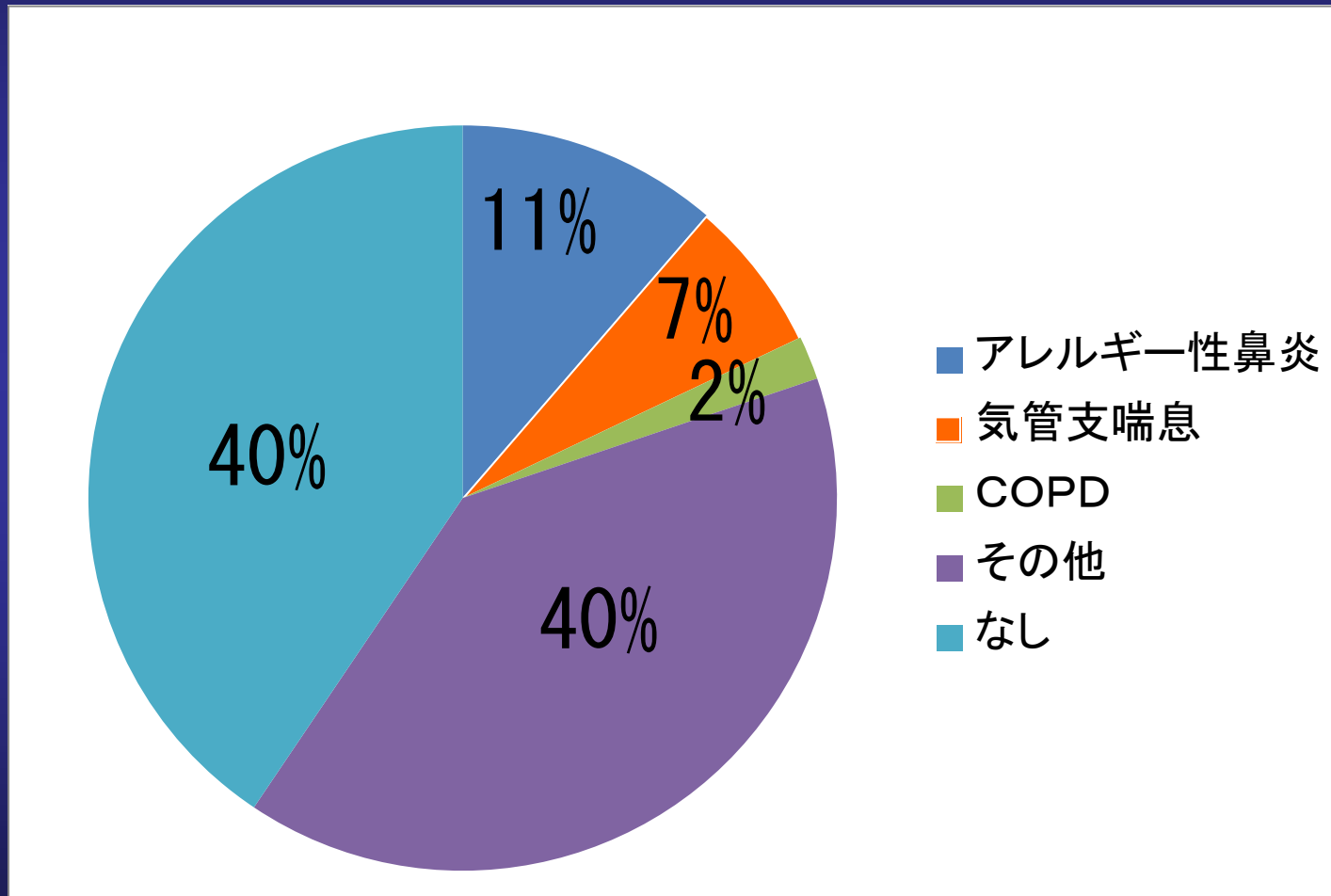
空港前クリニック



2012年1月から2014年12月（空港前クリニック）

副鼻腔炎（合併症）

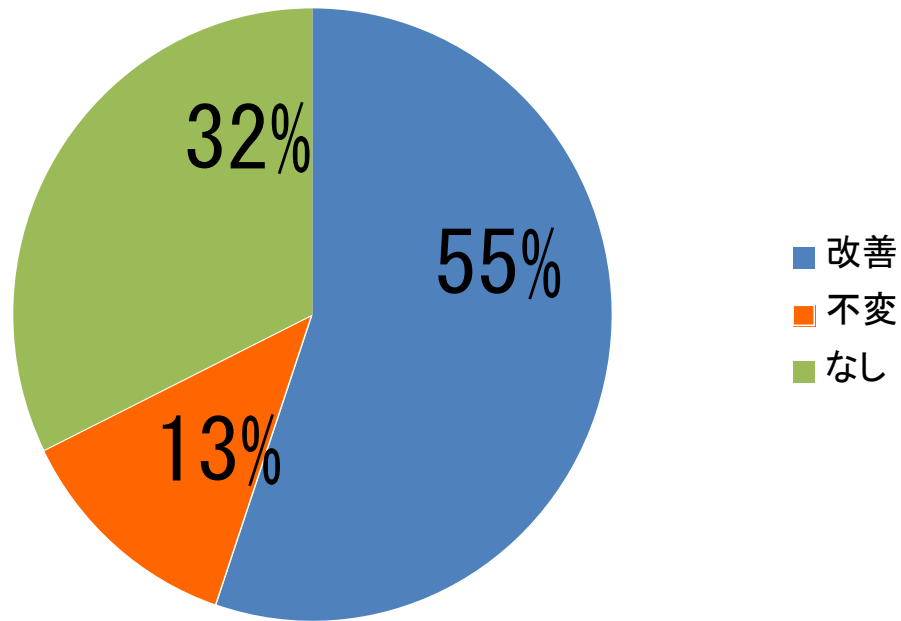
空港前クリニック



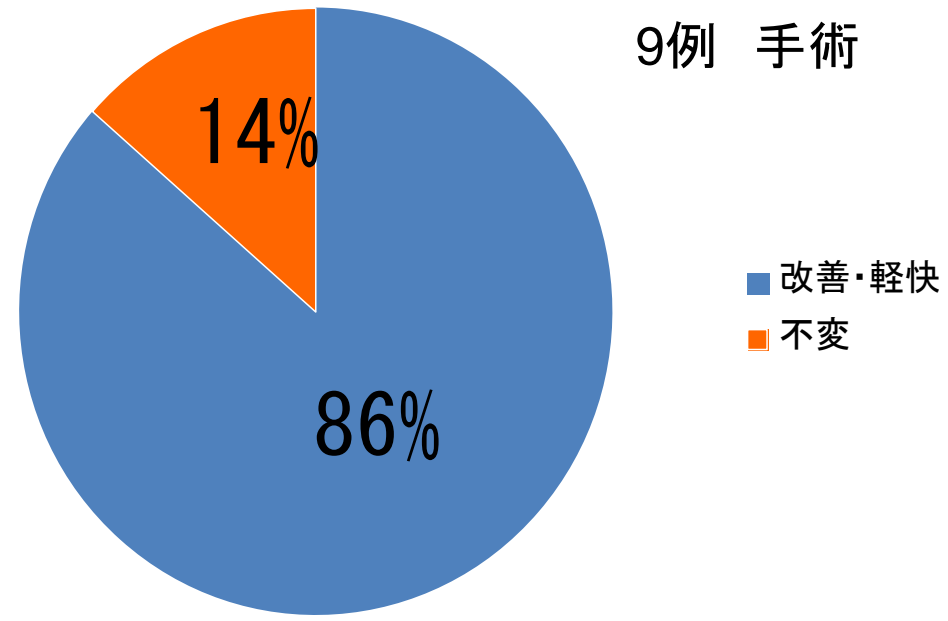
2012年1月から2014年12月（空港前クリニック）

副鼻腔炎（予後）

画像改善



空港前クリニック
症状改善



2012年1月から2014年12月（空港前クリニック）

6歳 男児 慢性副鼻腔炎

空港前クリニック

現病歴：小児科にて、咳、鼻汁で治療していた。学校健診で
鼻炎を指摘され、平成26年11月13日に当院受診した。

所見：鼻汁、両鼻粘膜の腫脹 鼻X-P両陰影あり

既往歴：気管支喘息、アレルギー性鼻炎

6歳 男児 慢性副鼻腔炎

空港前クリニック



治療前



治療後

経過：小児科にてキプレス内服中で、マクロライド療法を2ヵ月間行い、平成27年1月7日には治癒した。

37歳 男性 炎症性副鼻腔炎

空港前クリニック

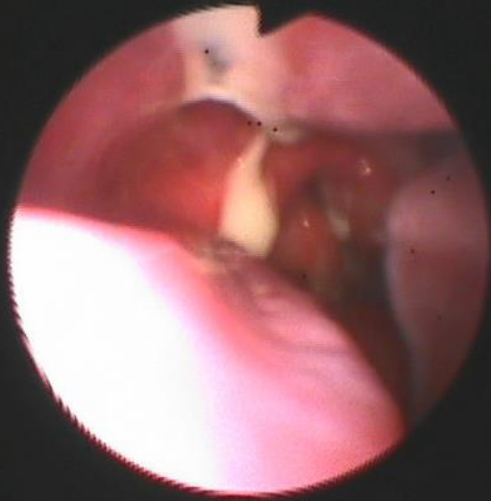
現病歴：2週間前に抜歯し、その後右頬痛、黄色鼻汁あり、
平成25年11月30日に当院受診した。

所見：右鼻より黄色鼻汁、X-Pで右副鼻腔に陰影あり

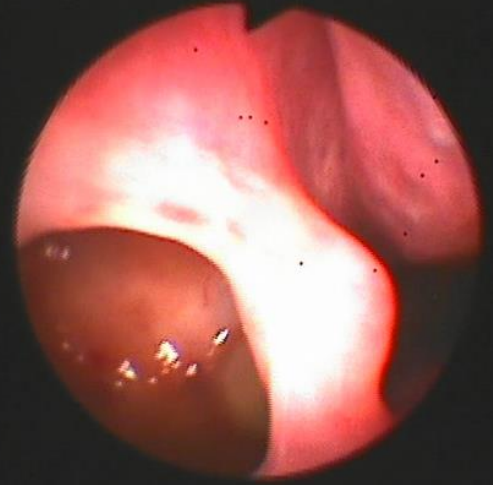
既往歴：歯抜歯 その他なし

37歳 男性 炎症性副鼻腔炎

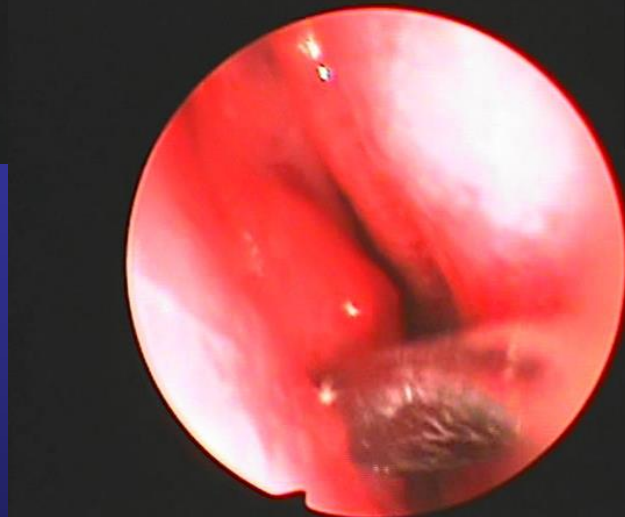
空港前クリニック



術前の後鼻漏



術後の自然孔



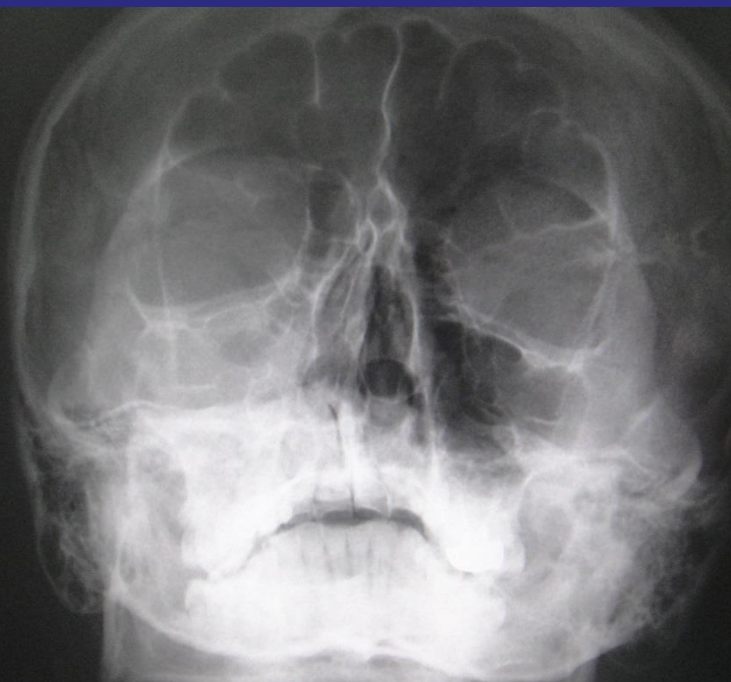
開窓術

経過：抗生剤、マクロライド療法を3カ月を行い、一時改善も、その後悪化、平成26年5月2日に再診、右鼻内側壁に腫脹を認めたため外来手術施行。

37歳 男性 治療前後

X線写真

空港前クリニック



治療前



治療後

手術：平成26年5月27日に開窓術。6月20日に治癒確認した。

57歳 男性 好酸球性副鼻腔炎

空港前クリニック

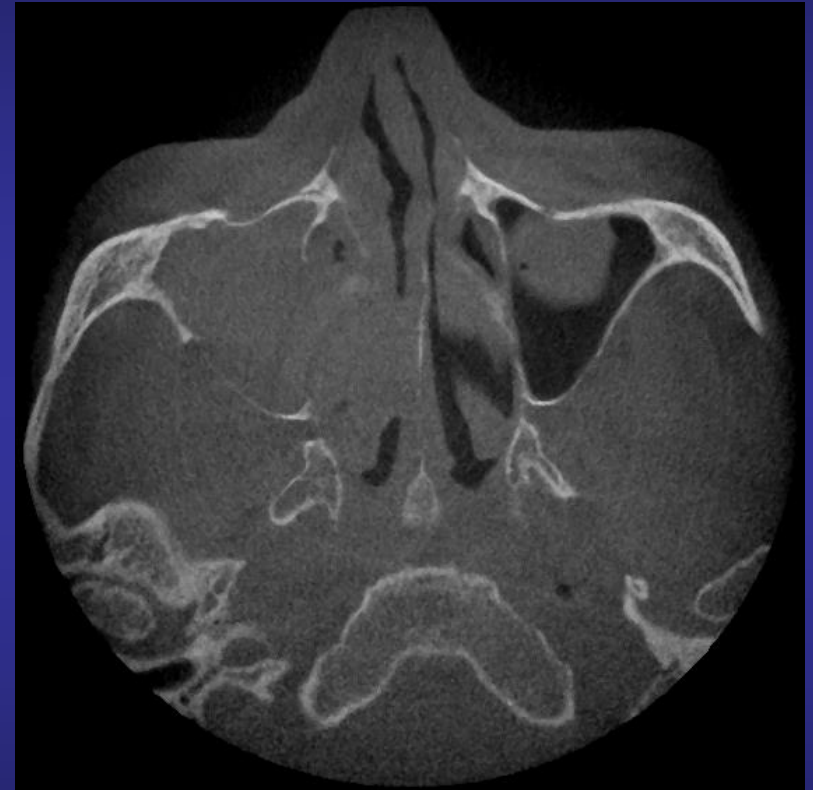
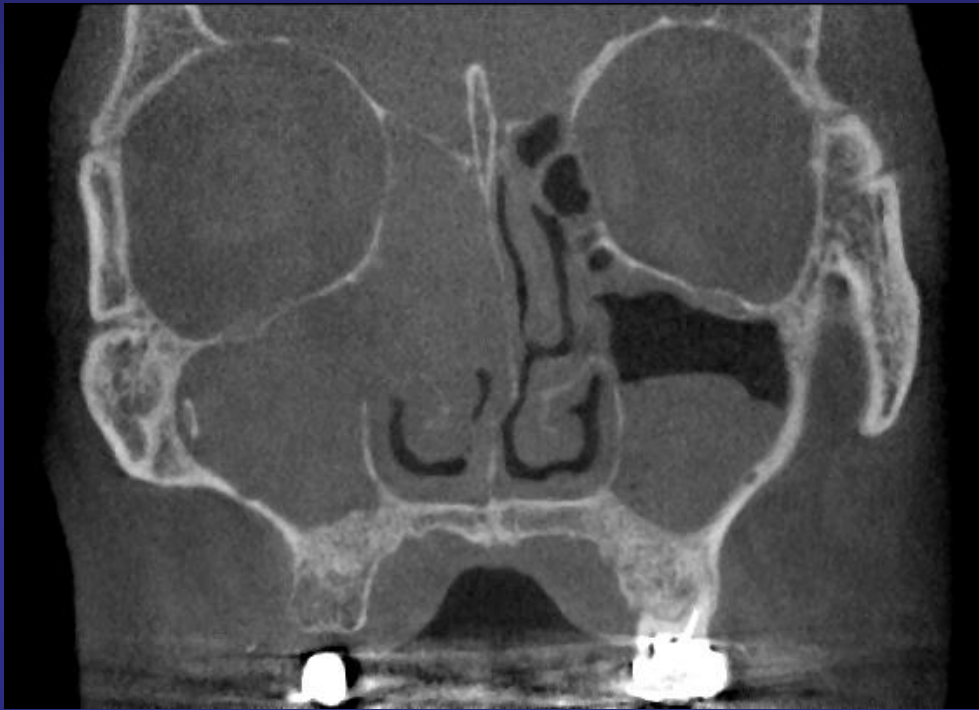
現病歴：2週間前から右鼻汁,平成26年10月21日に当院受診した。

所見：右鼻の粘膜の腫脹と粘性鼻汁、鼻X-P右中心に陰影

既往歴：その他なし

57歳 男 好酸球性副鼻腔炎

空港前クリニック



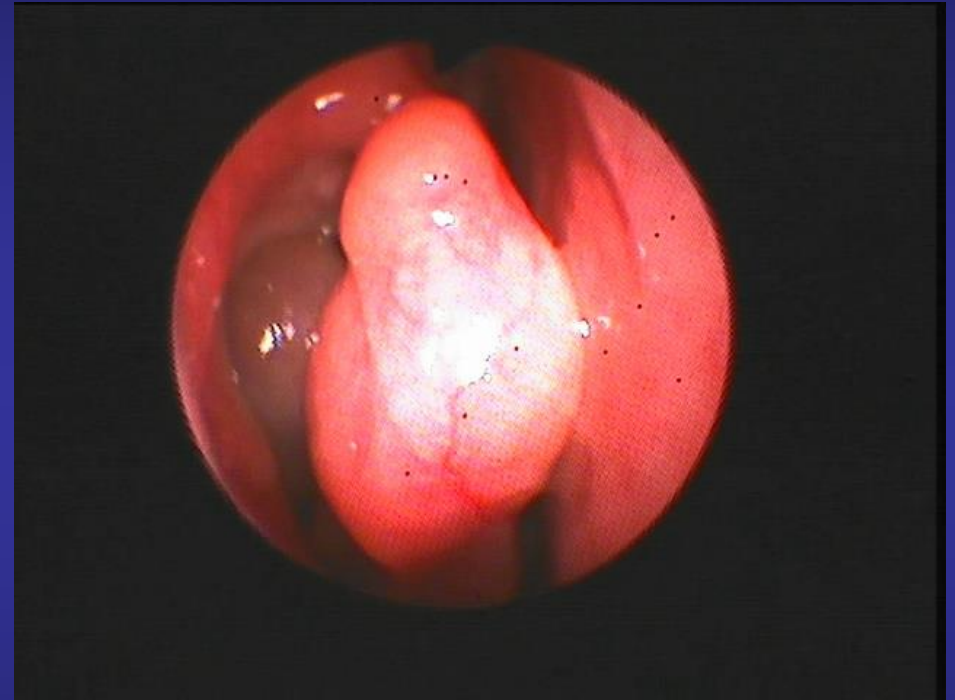
経過：鼻X-Pで右中心の副鼻腔炎、抗生剤を1週間使用したが、症状改善しなかった。鼻汁好酸球検査で3+で、症状が悪かったため抗生剤、ステロイド点滴を2日間を行った。

57歳 男性 好酸球性副鼻腔炎

空港前クリニック



治療前の中鼻道
粘膜浮腫と膿粘性鼻汁がみられる



治療後の中鼻道、中鼻甲介
中鼻道にややポリープあるも改善

所見：1ヵ月後には鼻内の腫脹はほぼ消失した。